

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1970101315		
法人名	社会福祉法人千歳会		
事業所名	グループホーム青沼		
所在地	甲府市青沼二丁目23番1号		
自己評価作成日	平成24年12月17日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=19">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=19</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成 25年 1月21日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

地域密着事業所として徐々に地域に定着し、業務を運営するうえで次のような事柄に重点を置き推し進めている。①推進会議には地域包括、自治会役員、民生児童委員、近隣住民等の委員で構成され、その計らいで運動会や神社祭典に出かけ又婦人会有志が来訪し交流している。②東日本大震災を機に避難訓練に重点を置き近隣住民の協力を得て訓練を実施している。③近所の八百屋さんには食材を持ちに行ったり、市街地にあるのでスーパーやドラッグストア等に出かけ買い物を楽しんでいる。④ドライブは定期的に実施しており、時には手作り弁当を持参し、それを屋外で摂り大変好評である。⑤スーパーに出かけ自分の好きな弁当やパン等を買求め昼食に取り入れている。又、時折回転すしなどの外食も楽しんでいる。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

市街地の南に位置する法人千歳会が運営する事業所で開設10年目を迎えた。交通の便がよく近所に公園や神社、商店があり散歩や買い物に便利な場所である。鉄骨2階建ての建物で玄関と道路の周りにパンジーの花が植えられ通行人の心も癒してくれる。室内は階段や壁、カーテンなどに淡いピンク色の装飾を施し温かさを感じる。地域密着型サービスを基本として近所の商店や地域役員の共助を得ながら地域に根付いてきている。管理者は社会情勢を踏まえ生活保護受給者を受け入れ病院の送迎や各種の手続きなど自ら行動し実践に繋げている。行政の担当者や職員の信頼も厚く理念に沿った支援に努め家庭的な雰囲気の中で暮らせる明るい事業所である。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

事業所名 グループホーム青沼

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内要所要所に理念及び基本方針を掲げ、職員個々にも手渡し、それを日々念頭に業務に当たることを基本としている。又、時には会議等で理念及び方針を確認し、全職員が「人間愛に満ちて」最良の介護を行うように取り組んでいる。	ホーム内要所要所に理念及び基本方針を掲げ、職員個々にも手渡し、それを日々念頭に業務に当たることを基本としている。又、時には会議等で理念及び方針を確認し、全職員が「人間愛に満ちて」最良の介護を行うように取り組んでいる。	人にも物にも草木にも「人間愛に満ちて」を理念に掲げている。職員会議でも振り返り確認している。フロアに掲示してあり職員はこの理念に沿って利用者の介護、支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	地区自治会に災害時の名簿を登録し、又大震災を機に避難訓練においても近隣住民の協力で避難誘導の協力を得ている。自治会行事の一環である運動会・神社の祭典・文化祭等には参加或いは見学し交流している。	地区自治会に災害時の名簿を登録し、又大震災を機に避難訓練においても近隣住民の協力で避難誘導の協力を得ている。自治会行事の一環である運動会・神社の祭典・文化祭等には参加或いは見学し交流している。	近所の八百屋やスーパーに買い物へ出掛け気軽に挨拶を交わしている。住民として自治会名簿に登録してある。運動会や神社のお祭り、文化祭にも参加し地域学生の介護実習や職場体験も受け入れ幅広い交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区GH、多機能事業所等が交流する東ほうかつ主催の交流・研修会等に定期的に参加し実践内容報告や事例発表等して情報交換している。又地元高校からの研修生の受け入れ、新規に事業所を開設する幹部職員の研修の場も提供している。	地区GH、多機能事業所等が交流する東ほうかつ主催の交流・研修会等に定期的に参加し実践内容報告や事例発表等して情報交換している。又地元高校からの研修生の受け入れ、新規に事業所を開設する幹部職員の研修の場も提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年間の行事、事業計画、報告の他、利用者の実態等報告し、委員から意見や要望を受け話し合い運営に反映している。又当該評価で明らかになった課題についても会議に諮り意見等聞くなどして改善策に取り組んでいる。	年間の行事、事業計画、報告の他、利用者の実態等報告し、委員から意見や要望を受け話し合い運営に反映している。又当該評価で明らかになった課題についても会議に諮り意見等聞くなどして改善策に取り組んでいる。	地域の住民代表者と地域包括支援センター、利用者の家族を含め9名で構成される運営推進会議は2ヶ月に1度開催している。ボランティアの協力など好意的な意見もあり会議の出席率もよく利用者の生活の向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生保受給利用者が多く(現在6名)介護報酬請求、医療面受診等日常的に関わりを持っている。又市介護サービス協議会の会員で会が開催する事業や研修会、グループワークに参加し対話の機会は多々ある。そこで得たものを業務に活かしている。	生保受給利用者が多く(現在6名)介護報酬請求、医療面受診等日常的に関わりを持っている。又市介護サービス協議会の会員で会が開催する事業や研修会、グループワークに参加し対話の機会は多々ある。そこで得たものを業務に活かしている。	独居の高齢者が増え生活保護受給利用者の入居受け入れに協力している。管理者は市の介護サービス役員を担い担当者とは毎月書類の手続きや相談など快く連携を図りながら利用者本位の運営に繋げている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないことを基本原則として介護業務に当たっている。拘束排除に関するマニュアルも整備しており常時習得可能な体制になっている。例えば帰宅願望で外へ出そうな様子を察知したら止めるのではなく、さりげなく声をかけたり一緒にドライブしたり近所を散歩したりして気持ちを落ち着かせるように配慮している。	身体拘束をしないことを基本原則として介護業務に当たっている。拘束排除に関するマニュアルも整備しており常時習得可能な体制になっている。例えば帰宅願望で外へ出そうな様子を察知したら止めるのではなく、さりげなく声をかけたり一緒にドライブしたり近所を散歩したりして気持ちを落ち着かせるように配慮している。	利用者の自主性を損なわない見守り介護をしている。利用者は外出も目的があり行くのでそと寄り添い散歩や買い物で気分転換するように支援している。扉の施錠もなく自由に出入りできる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勤務マニュアル及び全体会議の中で虐待に繋がる言葉遣い等話し合い研鑽し防止に取り組んでいる。何気なく発した言葉や態度が虐待と受け止められることが懸念されるので、常にそのようなことの無いように利用者に接している。	勤務マニュアル及び全体会議の中で虐待に繋がる言葉遣い等話し合い研鑽し防止に取り組んでいる。何気なく発した言葉や態度が虐待と受け止められることが懸念されるので、常にそのようなことの無いように利用者に接している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度に関して現段階では研修も未受講であり制度そのものも詳しく理解していない。従ってその必要性が生じた場合を考え研修を要するものと思います。※以前成年後見人制度を活用していた利用者(2人)が居たが現在退所していない。	成年後見制度に関して現段階では研修も未受講であり制度そのものも詳しく理解していない。従ってその必要性が生じた場合を考え研修を要するものと思います。※以前成年後見人制度を活用していた利用者(2人)が居たが現在退所していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又ははや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書に基づいて詳細に説明し要望等を聞いて可能な限り対応することを約束し契約を締結している。又退所に当たっても状況変化により契約解除に及ぶ場合は、対応方針を相談し方向付けをしている。	契約書、重要事項説明書に基づいて詳細に説明し要望等を聞いて可能な限り対応することを約束し契約を締結している。又退所に当たっても状況変化により契約解除に及ぶ場合は、対応方針を相談し方向付けをしている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談事、意見、要望、不満等直接管理者やケアマネ、介護職に、又は運営会議の場で言えるように心がけている。家族(親族、友人含む)には来訪時の他、電話や定期的便り(写真を添えて)で報告している。出された要望等は検討し対応している。	相談事、意見、要望、不満等直接管理者やケアマネ、介護職に、又は運営会議の場で言えるように心がけている。家族(親族、友人含む)には来訪時の他、電話や定期的便り(写真を添えて)で報告している。出された要望等は検討し対応している。	家族の面会時にお茶を入れ世間話や利用者の状況を報告する。主に好物や苦手な食材なども聞きメニューの参考に。種類が嫌いだっ利用者も工夫で食べられるようになり家族の喜びもあった。会議で出された意見や要望は運営に繁榮させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的全体会議や必要に応じ主任やケアマネ中心の検討会において業務運営に関して意見や提案を聞く機会を設けサービス全般に亘り質の向上に努めている。代表者(花菱荘荘長)は定期的に来訪し職員、利用者と対話するなどして運営に反映している。	定期的全体会議や必要に応じ主任やケアマネ中心の検討会において業務運営に関して意見や提案を聞く機会を設けサービス全般に亘り質の向上に努めている。代表者(花菱荘荘長)は定期的に来訪し職員、利用者と対話するなどして運営に反映している。	管理者は柔軟に職員の希望を受け入れてくれる。休暇や時間調整など都合がつき働きやすい。全職員に係があり、レクリエーション系の提案に皆で協力するなど意見を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は月1回程度現場で利用者及び職員と語り合う等して利用者の生活状況を把握し、職員と意思疎通を図り向上心が持てるよう働きかけている。又、資質向上のため介護支援専門員、介護福祉士等資格取得のため受験機会を確保している。	代表者は月1回程度現場で利用者及び職員と語り合う等して利用者の生活状況を把握し、職員と意思疎通を図り向上心が持てるよう働きかけている。又、資質向上のため介護支援専門員、介護福祉士等資格取得のため受験機会を確保している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外や法人グループで開催する各種研修会に全職員が受講出来るようにしている。参加した職員は必要により勉強会又は資料を閲覧できるようにしている。新人職員には1～2ヶ月間ケアの技術面の外、関わり方等丁寧に指導している。	事業所外や法人グループで開催する各種研修会に全職員が受講出来るようにしている。参加した職員は必要により勉強会又は資料を閲覧できるようにしている。新人職員には1～2ヶ月間ケアの技術面の外、関わり方等丁寧に指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県GH協会、介護労働安定センター、市介護事業者協議会主催の研修会・GW・事例検討・発表会等を通じて地域内外多くの事業所と交流し、情報交換等で研修したことをサービスの質の向上に活かしている。	県GH協会、介護労働安定センター、市介護事業者協議会主催の研修会・GW・事例検討・発表会等を通じて地域内外多くの事業所と交流し、情報交換等で研修したことをサービスの質の向上に活かしている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	順番が来た場合、事前に本人に会って心身の状況や本人の思いに聞き合い、利用が決まったら介護士が本人に受け入れられるような関係づくりに努めている。(認知症の度合いにより家族等に聞くことが多々ある。)	順番が来た場合、事前に本人に会って心身の状況や本人の思いに聞き合い、利用が決まったら介護士が本人に受け入れられるような関係づくりに努めている。(認知症の度合いにより家族等に聞くことが多々ある。)		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前若しくは入所後キーパーソンに利用者の心身の状態やこれまでの家族の苦労又、今日までのサービスの利用状況等出来るだけ詳しく聞いてそれをサービス提供に活かすことを前提に信頼関係を築いている。	事前若しくは入所後キーパーソンに利用者の心身の状態やこれまでの家族の苦労又、今日までのサービスの利用状況等出来るだけ詳しく聞いてそれをサービス提供に活かすことを前提に信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状を確認し、空きがない場合、可能な限り柔軟な対応して空きが出るまで他のサービスを利用する方法等アドバイスしている。本人と家族にとって問題点を見出しその解決策としてのサービスを提案している。	現状を確認し、空きがない場合、可能な限り柔軟な対応して空きが出るまで他のサービスを利用する方法等アドバイスしている。本人と家族にとって問題点を見出しその解決策としてのサービスを提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	年長者であるが故に普段から利用者に教えてもらう場面が多い。そうしたことからその場面づくりを工夫し、協働しながら穏やかに、そして和やかに生活できるような関係を築いている。	年長者であるが故に普段から利用者に教えてもらう場面が多い。そうしたことからその場面づくりを工夫し、協働しながら穏やかに、そして和やかに生活できるような関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の状況を具体的に伝え、そこで情報交換をして絆を深め信頼関係を醸成している。そうした中で利用者を支えていくための家族との関係が更に深まっている。	利用者の状況を具体的に伝え、そこで情報交換をして絆を深め信頼関係を醸成している。そうした中で利用者を支えていくための家族との関係が更に深まっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの人生経験を断ち切らないように心がけ友人、知人等が訪問するなどして継続的に交流している。又馴染みの美容院やお店に行ったり、命日やお彼岸に墓参りする等、一人ひとりの生活習慣を尊重している。	これまでの人生経験を断ち切らないように心がけ友人、知人等が訪問するなどして継続的に交流している。又馴染みの美容院やお店に行ったり、命日やお彼岸に墓参りする等、一人ひとりの生活習慣を尊重している。	地域の利用者が多い為、突然訪ねて来る友人や電話をかけてくる知人の取り次ぎの支援をしている。行きつけの床屋、美容院への送迎や年賀状などのやり取りも支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が団欒できる時間や気の合う者同士で過ごせる場面づくり等介護士が中に入り支援している。食事(お茶も)も一緒に食べ、量や好き嫌いも把握しながら表情や健康状態を観察し、適宜対応している。	利用者同士が団欒できる時間や気の合う者同士で過ごせる場面づくり等介護士が中に入り支援している。食事(お茶も)も一緒に食べ、量や好き嫌いも把握しながら表情や健康状態を観察し、適宜対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人グループの老健、特養に移り生活している方(現在3人)には折に触れ励ましの言葉をかけたり、現状を聞く等している。又、他施設に移られた方の情報も得て関係を断ち切らないように努めている。	法人グループの老健、特養に移り生活している方(現在3人)には折に触れ励ましの言葉をかけたり、現状を聞く等している。又、他施設に移られた方の情報も得て関係を断ち切らないように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日中から夜間チームワークで支援し、表情、動作、話し方等から要望を聞いたり真意を確認するようにしている。意志等推し測ることが困難な場合は家族等と相談しながら対応している。	日中から夜間チームワークで支援し、表情、動作、話し方等から要望を聞いたり真意を確認するようにしている。意志等推し測ることが困難な場合は家族等と相談しながら対応している。	主婦歴の長い利用者は食事作りの手伝いを進んで行う。エプロンをして包丁を持つと野菜を刻む音が軽やかに響く。習字や歌が好きな利用者など持ち前の良さを引き出し宝くじで夢を買う利用者にも対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、親族若しくは担当ケアマネから生活歴等を聞いて、個々の状況を把握して共同生活に慣れ親しむよう支援している。	本人、家族、親族若しくは担当ケアマネから生活歴等を聞いて、個々の状況を把握して共同生活に慣れ親しむよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の心理面、生活リズムを念頭に表情、動作などくみ取りその日、その日の生活リズムに取り入れている。できないことよりできることに着目し力量が発揮され、満足感として捉えられるように支援している。	個々の心理面、生活リズムを念頭に表情、動作などくみ取りその日、その日の生活リズムに取り入れている。できないことよりできることに着目し力量が発揮され、満足感として捉えられるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	プラン作成、見直し時、本人や家族の要望を聞きモニタリング、ケアカンファレンスで意見交換して課題を評価し次のプランに活かしている。時には介護保険更新時に調査員の意見も参考にしてスタッフ間で話し合いプランに反映している。	プラン作成、見直し時、本人や家族の要望を聞きモニタリング、ケアカンファレンスで意見交換して課題を評価し次のプランに活かしている。時には介護保険更新時に調査員の意見も参考にしてスタッフ間で話し合いプランに反映している。	全体会議を2ヶ月に1度行いプランの見直しや計画の変更を検討している。状況の変化や緊急の時は必要に応じて修正している。家族の意見を聞き利用者の本意の状態に合わせた介護計画の作成に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録を重視し食事摂取から排泄状況、本人の言葉、エピソード等も具に記録している。それを全員が確認し、引継ぎで情報共有を徹底している。それらを前提に介護計画の見直しをしている。	個々の記録を重視し食事摂取から排泄状況、本人の言葉、エピソード等も具に記録している。それを全員が確認し、引継ぎで情報共有を徹底している。それらを前提に介護計画の見直しをしている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービスの一環として病院・医院(歯科含む)への通院受診(緊急も含む)はホーム対応で行なっている。他にもおむつや日用品、衣料品の購入に至る迄柔軟に対応しており本人はもとより家族にも好評である。	サービスの一環として病院・医院(歯科含む)への通院受診(緊急も含む)はホーム対応で行なっている。他にもおむつや日用品、衣料品の購入に至る迄柔軟に対応しており本人はもとより家族にも好評である。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元自治会役員・市笑顔ふれあいサポーター事業の一環でボランティアの訪問を毎月受けている。納涼祭にも参加していただくなど交流を深めている。地域ほ包括とも連携を密にしているの相談もしながら情報交換している。	地元自治会役員・市笑顔ふれあいサポーター事業の一環でボランティアの訪問を毎月受けている。納涼祭にも参加していただくなど交流を深めている。地域ほ包括とも連携を密にしているの相談もしながら情報交換している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所協力病院(歯科医)の他、利用前からのかかりつけ医で医療を継続できるように、又新たな病気についても家族と相談しながら複数の医療機関と関係を密にして受診している。	事業所協力病院(歯科医)の他、利用前からのかかりつけ医で医療を継続できるように、又新たな病気についても家族と相談しながら複数の医療機関と関係を密にして受診している。	医療機関への受診は管理者の送迎で行っている。生活保護関係の受診券手続きや付き添いなどの支援に努めている。地域のかかりつけ医の受診も送迎支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	夜勤専門介護職及びケアマネ職に正看資格者(経験者)3名おり、利用者の健康管理や状態変化に応じた適切な支援をしている。又緊急時には協力病院に相談しながら指示を仰ぐ等して対応している。	夜勤専門介護職及びケアマネ職に正看資格者(経験者)3名おり、利用者の健康管理や状態変化に応じた適切な支援をしている。又緊急時には協力病院に相談しながら指示を仰ぐ等して対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはADL状況や過去の病気、現状等を医療機関に提供し、適宜面会に行き回復状況や治療期間の予定等担当主治医、看護師、医療相談員等から聞き対応している。又家族とも情報交換しながら退院支援に結びつけている。	入院時にはADL状況や過去の病気、現状等を医療機関に提供し、適宜面会に行き回復状況や治療期間の予定等担当主治医、看護師、医療相談員等から聞き対応している。又家族とも情報交換しながら退院支援に結びつけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化若しくは療養等が長期化しホームでの生活が困難となった場合、家族及び療養先(相談員等)と話し合い退所先等方向付けをしている。特養、老健等待機者が多く移行が困難な実状であるが、家族の意向を確認して法人グループで運営する施設へ移っていくケースもある。	重度化若しくは療養等が長期化しホームでの生活が困難となった場合、家族及び療養先(相談員等)と話し合い退所先等方向付けをしている。特養、老健等待機者が多く移行が困難な実状であるが、家族の意向を確認して法人グループで運営する施設へ移っていくケースもある。	入居時に看取りの出来ないことを説明している。医療行為が必要な場合は特別養護老人ホームか老人保健施設に移るよう家族と話し合っている。法人系列で運営する事業所に移る場合もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署員による救命救急法実技指導(直近H23年6月)を受けた経緯はあるので初期の対応方法は習得している。救急車が到着する前の応急処置や情報提供も含めて準備すべきことについては研修している。	消防署員による救命救急法実技指導(直近H23年6月)を受けた経緯はあるので初期の対応方法は習得している。救急車が到着する前の応急処置や情報提供も含めて準備すべきことについては研修している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	大震災を機に新たに防災マニュアルを作成し避難訓練に際して時に近隣住民の協力を得て実施している。訓練の都度、避難経路、避難場所の確認、消火器の使い方、怪我人の応急処置等防火管理者指導のもと周知徹底している。	大震災を機に新たに防災マニュアルを作成し避難訓練に際して時に近隣住民の協力を得て実施している。訓練の都度、避難経路、避難場所の確認、消火器の使い方、怪我人の応急処置等防火管理者指導のもと周知徹底している。	夜間想定訓練を年4回実施している。地域の消防団や住民の協力体制もある。備蓄品も3日分準備してあり消火器の使い方訓練している。施設の近隣に住む職員もおり、心強い。消防署直通の回線も引いてある。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	馴れ合いの仲でも本人の尊厳を無視した言葉かけや態度、ケア等に最大限気配りを怠らず対応している。採用時「個人情報保護に関する誓約書」を提出して、在職中は勿論、退職後も知り得た情報を漏らすことのないよう管理を徹底している。	馴れ合いの仲でも本人の尊厳を無視した言葉かけや態度、ケア等に最大限気配りを怠らず対応している。採用時「個人情報保護に関する誓約書」を提出して、在職中は勿論、退職後も知り得た情報を漏らすことのないよう管理を徹底している。	幼児語は使わない。必要以上な丁寧語、気軽すぎる方言など日常の会話は職員同士の気づきで注意し話合っている。人生の大先輩である利用者から学ぶことが多く職員は手本としている。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の状態(レベル等)に合わせて声をかけ、意思表示が困難な方には表情を読み取ったりメモなどをを使い、些細なことでも本人が決める場面をつくっている。(飲みたいもの、食べたいもの、やりたいこと、する、しない、等)	個々の状態(レベル等)に合わせて声をかけ、意思表示が困難な方には表情を読み取ったりメモなどをを使い、些細なことでも本人が決める場面をつくっている。(飲みたいもの、食べたいもの、やりたいこと、する、しない、等)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日課はあるが、時間を区切った過ごし方はしていない。外出(買い物や散歩)についても個々の体調や状態を見て、その日、その時の気持ちを尊重し柔軟に対応している。	基本的な日課はあるが、時間を区切った過ごし方はしていない。外出(買い物や散歩)についても個々の体調や状態を見て、その日、その時の気持ちを尊重し柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段の衣服、外出時の服装は自ら選び着ている。介護士は見守り、支援が必要な場合は手伝う。ネイル(爪の手入れ、ボランティア)も好評だった。理容は2ヶ月に1回程度に変更し、希望通りにカットしている。(馴染みの店へ行く方もいる。)	普段の衣服、外出時の服装は自ら選び着ている。介護士は見守り、支援が必要な場合は手伝う。ネイル(爪の手入れ、ボランティア)も好評だった。理容は2ヶ月に1回程度に変更し、希望通りにカットしている。(馴染みの店へ行く方もいる。)		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューに利用者の要望も聞き適宜献立を立てている。調理・盛り付け・配膳・片付け・食器洗い等も一緒に、介護士もテーブルを囲んで和やかな雰囲気の中で食べている。年に数回スーパーで弁当等好みの物を買ったり外食もしている。	メニューに利用者の要望も聞き適宜献立を立てている。調理・盛り付け・配膳・片付け・食器洗い等も一緒に、介護士もテーブルを囲んで和やかな雰囲気の中で食べている。年に数回スーパーで弁当等好みの物を買ったり外食もしている。	食材をスーパーや八百屋へ買いに行き利用者と一緒に調理をしている。味見や配膳お茶配り利用者の得意分野の役割で動いている。全員で同じ料理を頂く、自分の箸、茶碗、湯呑みで会話やテレビを見ながらの食事は家庭と同じ風景である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日、1600カロリーを基準に摂取量を決め、糖尿や肥満等の値が高い方には出来るだけその人に合う栄養バランスを考慮しながら対応している。毎日利用者個々の摂取量、水分の補給や量等記録や申し送り共有している。	1日、1600カロリーを基準に摂取量を決め、糖尿や肥満等の値が高い方には出来るだけその人に合う栄養バランスを考慮しながら対応している。毎日利用者個々の摂取量、水分の補給や量等記録や申し送り共有している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に口腔内清潔保持のため声かけて個々の能力に応じて介護士が見守ったり、介助している。就寝前に義歯を外し洗浄液に浸している。協力歯科医院により口腔ケアの講習会も実施している。	食後に口腔内清潔保持のため声かけて個々の能力に応じて介護士が見守ったり、介助している。就寝前に義歯を外し洗浄液に浸している。協力歯科医院により口腔ケアの講習会も実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄自立以外の利用者個々の排泄パターン等を把握し声かけ(あからさまでなく)で誘導対応している。その中で極力リハビリパンツ、パットを外すことに力を入れている。夜間ポータブルトイレ使用の方に対してもトイレ誘導することでトイレで排泄を促している。	排泄自立以外の利用者個々の排泄パターン等を把握し声かけ(あからさまでなく)で誘導対応している。その中で極力リハビリパンツ、パットを外すことに力を入れている。夜間ポータブルトイレ使用の方に対してもトイレ誘導することでトイレで排泄を促している。	自然の生活の中でさりげなくトイレ誘導をしている。リハビリパンツ、パット、オムツ外しの時間などの記録をもとに自立支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘症の利用者には主治医の指示で内服の量や頻度で対応している。予防策として水分補給や繊維質の多い食材や乳製品を取り入れている。又体操や散歩、食事のお手伝い等体を動かすことも日課としており自然排便に取り組んでいる。	便秘症の利用者には主治医の指示で内服の量や頻度で対応している。予防策として水分補給や繊維質の多い食材や乳製品を取り入れている。又体操や散歩、食事のお手伝い等体を動かすことも日課としており自然排便に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1階、2階交互に週3回朝から1人で入浴しており割と好評である。着脱や入浴の介助は個々の状態を把握して対応している。入浴を拒む人に対して、言葉かけや対応の工夫、チームプレー等によって一人ひとりに合わせた入浴支援をしている。	1階、2階交互に週3回朝から1人で入浴しており割と好評である。着脱や入浴の介助は個々の状態を把握して対応している。入浴を拒む人に対して、言葉かけや対応の工夫、チームプレー等によって一人ひとりに合わせた入浴支援をしている。	入浴は週3回実施している。利用者の健康状態や希望に応じ対応している。拒む利用者は気分転換を図りスムーズな入浴ができる支援をしている。	



自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中個々の生活リズムを把握した中でその人に合った活動を促し夜間心地よく安眠できるよう支援している。特に夕食後からはテレビを観たり団楽したり思い思いに過ごして安心感を持たせゆっくりお休みできるように対応している。	日中個々の生活リズムを把握した中でその人に合った活動を促し夜間心地よく安眠できるよう支援している。特に夕食後からはテレビを観たり団楽したり思い思いに過ごして安心感を持たせゆっくりお休みできるように対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	その都度処方内容コピーを個々のファイルに整理し介護士が内容を把握して内服している。状況により手渡しして飲むまで確認の他、口に入れて服用まで確かめている。処方箋の内容、容量等が変更があれば主治医と連携し対応している。	その都度処方内容コピーを個々のファイルに整理し介護士が内容を把握して内服している。状況により手渡しして飲むまで確認の他、口に入れて服用まで確かめている。処方箋の内容、容量等が変更があれば主治医と連携し対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	長い人生経験の中で一人ひとりの得意とすることを把握して食事準備、掃除等の他、季節により家庭菜園(水やりから収穫まで)づくり。又外出支援、地域の行事参加、催し物の見学などしてストレス解消に努めている。	長い人生経験の中で一人ひとりの得意とすることを把握して食事準備、掃除等の他、季節により家庭菜園(水やりから収穫まで)づくり。又外出支援、地域の行事参加、催し物の見学などしてストレス解消に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の要望、話し合いで屋外に出かけることを常に実践している。季節を肌で感じてもらい、心身の活性に繋がるよう散歩、ドライブ、買い物、或いは公園等に出かけている。又、年間を通じて初詣、花見、いちご狩り、紅葉見学等に出かけストレス発散に活かしている。	利用者の要望、話し合いで屋外に出かけることを常に実践している。季節を肌で感じてもらい、心身の活性に繋がるよう散歩、ドライブ、買い物、或いは公園等に出かけている。又、年間を通じて初詣、花見、いちご狩り、紅葉見学等に出かけストレス発散に活かしている。	季節により花見、ドライブ、ファミリーレストランなど外出する機会が多く利用者の家族にも喜ばれている。天気の良い日はお弁当を持って出掛け外部の人とのふれあいの時を過ごしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の中に数名お金を所持しており時折スーパーやドラッグストアで日用品等を買ってレジで精算し買ったという満足感を味わっている。又、入浴介助等のお礼にチップ?として介護士に手渡す方もいる。(素直に受け取り家族にお返ししている。)	利用者の中に数名お金を所持しており時折スーパーやドラッグストアで日用品等を買ってレジで精算し買ったという満足感を味わっている。又、入浴介助等のお礼にチップ?として介護士に手渡す方もいる。(素直に受け取り家族にお返ししている。)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はある程度自由(番号でかけてあげる)にかけられるようになっており、かかってきた場合もつないでいる。又、手紙、年賀状なども家族やお友達とやり取りしている。中には投函するに当たり郵便局まで一緒に付添い出している方もいる。	電話はある程度自由(番号でかけてあげる)にかけられるようになっており、かかってきた場合もつないでいる。又、手紙、年賀状なども家族やお友達とやり取りしている。中には投函するに当たり郵便局まで一緒に付添い出している方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	鉄骨作り2階建てで周囲に高い建物もなく1日中日が当たり環境も良い。内部もホールや廊下等ゆとりのある広さで、浴室、トイレ等表示があり分かりやすい配置になっている。共用部分に絵画の他、利用者と一緒に作った貼り絵や俳句、行事写真も飾り家庭的雰囲気が出ている。	鉄骨作り2階建てで周囲に高い建物もなく1日中日が当たり環境も良い。内部もホールや廊下等ゆとりのある広さで、浴室、トイレ等表示があり分かりやすい配置になっている。共用部分に絵画の他、利用者と一緒に作った貼り絵や俳句、行事写真も飾り家庭的雰囲気が出ている。	段差のない広いスペースのフロアに工夫を凝らした白木のテーブルと椅子がある。日当たりの良い窓際に炬燵がある。共有する場に集まり利用者は会話を楽しみながら寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やホール等の空間を活用し、椅子やテーブル、ソファを置き利用者同士や家族等とも気軽に話しかけられるように工夫している。時々その場所で1人のんびり寛いでいる方もいる。	廊下やホール等の空間を活用し、椅子やテーブル、ソファを置き利用者同士や家族等とも気軽に話しかけられるように工夫している。時々その場所で1人のんびり寛いでいる方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭で使い慣れた椅子、テーブル、鏡台、収納セット、テレビなど持ち込みは自由で家族や介護士と相談しながら配置して居心地の良ように工夫している。(ベッドとタンス、カーテンはホーム側で備え付け)	家庭で使い慣れた椅子、テーブル、鏡台、収納セット、テレビなど持ち込みは自由で家族や介護士と相談しながら配置して居心地の良ように工夫している。(ベッドとタンス、カーテンはホーム側で備え付け)	居室は6畳で備え付けのタンス、ベッド洗面所があり家で使い慣れた道具や仏壇が置かれている。手づくりの1月のカレンダーに色を塗り貼ってある。家族から送られた花で部屋を飾る人、家族の写真や習字など貼り個性ある居室になっている	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	内部はバリアフリーでホール、廊下、階段等に手摺がありエレベーターも設置して安全に配慮している。厨房のシンク、調理台も使い易く出来ている。又、各居室の洗面所も水とお湯が自動で出るように設備してある。	内部はバリアフリーでホール、廊下、階段等に手摺がありエレベーターも設置して安全に配慮している。厨房のシンク、調理台も使い易く出来ている。又、各居室の洗面所も水とお湯が自動で出るように設備してある。		